

## 審議会等の会議録

審議会等名	令和6年度第6回海老名市社会教育委員会議
開催日時	令和7年2月28日（金）10時から12時まで
場 所	えびなこどもセンター 201 会議室
出席者	<p>社会教育委員 8 名  橋本議長、金田副議長、岩崎委員、金指委員  栗山委員、佐藤委員、中野委員、松島委員</p> <p>事務局 8 名  教育長 伊藤 文康  教育部長 江下 裕隆  教育部次長 吉川 浩  学び支援課長 松本 晃子  学び支援課主幹兼学び支援係長 中島 裕子  学び支援課副主幹兼指導主事兼社会教育主事 重岡 慎一郎  学び支援課主任主事 大塚 美樹  学び支援課主事補 小島 和也</p> <p>指定管理者 2 名  中央図書館 有富氏  有馬図書館 大河原氏</p>
傍聴人数	0名
公開の可否	<input type="checkbox"/> 公開 <input checked="" type="checkbox"/> 一部非公開 <input type="checkbox"/> 非公開
一部非公開・ 非公開の理由	議題（3）は来年度予算に係る内容であるため非公開
議 題	（1）海老名市社会教育計画について （2）第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会について （3）令和7年度社会教育関係団体への補助金について （4）海老名市立図書館の運営について （5）電子図書館に関するアンケート結果について （6）その他

資 料	<p>(1) 次第</p> <p>(2) 席次表、出席者名簿</p> <p>(3) 海老名市社会教育計画について</p> <p>(4) 社会教育計画の変遷</p> <p>(5) 神奈川大会分科会発表案</p> <p>(6) 令和7年度海老名市社会教育関係団体への補助金について</p> <p>(7) 海老名市立中央図書館2024年度事業報告及び2025年度事業計画</p> <p>(9) 海老名市立有馬図書館令和6年度事業報告及び次年度の取り組みについて</p> <p>(10) 電子図書館に関するアンケート結果</p> <p>(11) 電子図書館児童・生徒利用者数等について</p>
-----	--

## ○会議の内容

<b>1 開会</b>	
【事務局】	<p>定刻となりましたので、令和6年度第6回海老名市社会教育委員会議を開会いたします。</p> <p>なお、本日、小川委員、中谷委員が欠席、松島委員は遅参の予定です。開会にあたり、橋本議長からご挨拶をいただきたいと思ひます。よろしくお願ひいたします</p>
<b>2 あいさつ</b>	
【議長】	(議長よりあいさつ)
【事務局】	<p>ありがとうございました。</p> <p>続きまして、伊藤教育長よりごあいさつ申し上げます。</p>
【教育長】	(伊藤教育長あいさつ)
【事務局】	それでは議事に入りますので、議長、これからの進行をよろしくお願ひいたします。
<b>3 議事</b>	
【議長】	議事に入ります。1点目海老名市社会教育計画について事務局より説明をお願いします。
【事務局】	(海老名市社会教育計画について説明)
【議長】	それでは、次期計画について意見交換したいと思ひます。関わられている団体等で感じていることや課題などざっくばらんにお願ひします。
【委員】	以前は、社会教育団体のしおりは、紙で配布していたと聞いている。紙で各家庭に配られれば、周知が図れるのでは。

【事務局】	しおりが完成した令和3年度には、年度始めに児童・生徒に配布し、その後の更新はホームページ上で行っている。今後の周知についても、委員の皆様から意見をいただいで行っていきたい。
【委員】	つながり、という部分では、文芸協が取り組み始めた「伝統文化子ども教室委員会」とうまく連携をしていければと思っている。体験教室も定期的で開催しているため、フェスタと一緒に開催ができれば、よりよい取り組みになると思う。文化を継承する、という意味でも、学童や学校応援団ともつながりをつくってきたい。
【委員】	まちづくりも第2ステージと打ち出された。社会教育計画も、第2ステージとして、これまでの取り組みにもう一回取り組んでいくのはどうか。新しいことを入れるのではなく、くり返していくことが大切だと感じる。
【委員】	関わる方々が、今の学校の状況を知ることが大切。周知のツールが紙ではなくなってきたことなど、変わってきていることもあるので、まずは市の担当者の中で意見交換や協力ができる機会があるとよい。お互いに状況を理解したうえで取り組むことが、お互いの思いの実現につながっていくのでは。
【委員】	PTAの活動も、子どものためと思っていたが、保護者の思いが自分の子どもだけに向いている気がする。わが子のクラスメイトを知らなかったり、親同士も顔見知りではなかったりする。子どもと一緒に参加してくれる親にフォーカスできたらと思う。ただ、その場所に子どもを連れていけない家庭もあるため、アクセスのしやすさも大事だと思う。
【委員】	広報・周知はやはり大切である。団体など、名前は知っているけれど、活動の中身は知らない、ということが多く聞かれる。学校の授業に協力すると、児童がお礼の手紙を書いてくれる。そうやってつながりもつくっている。活動の周知をしていけば、盛り上がってくるかなと感じる。
【委員】	PTA活動が変わってきて、年間を通した活動が難しくなっているのでは。でも、行事ごとなどでボランティアを募ると集まる。私も学校の池づくりに携わった。とても楽しかったし、その後学校行事に招待され、特別感もあった。自分の得意をいかして、スポット的な関わりができるとよいのではないか。
【副議長】	人との関わりを重んじていないのでは、と感じる部分もある。団体での役職など、大変だという気持ちもわかるが、団体や人をつなぐ役目もある。フルインクルーシブシティになるためにも、その視点での取組にも団体や社会教育としても力を入れていく必要があるのではないか。

【委員】	体験教室等の説明に中学、高校に説明に伺ったが、学校の協力を得られるかどうかは、学校の方針が大きいと感じた。
【議長】	小学校だと今取り組んでいる行事に一つのブースとして入っていくことは可能かもしれない。今あるところに入っていく、今あるものをくっつけるという考え方がよいのかもしれない。中学校になると敷居が高いように感じるが、中学校区のイベントを、今年度中学校を会場として開催した。部活動の生徒も参加してくれ、中学生にとっても人と関わる機会となり、とてもよい取り組みであったと思う。
【副議長】	ご意見を伺っていると、「文化」「大人」「団体の周知」「フルインクルーシブ」などがキーワードかなと。
【教育長】	目標は変わらないが、工夫の部分として実行していくのが大事であり、今も様々工夫をしてくださっている。学校も地域に頼るようになってきている。大人同士がつながる機会がつかれるとよい。ここでの話し合いが、海老名の課題を解決する取組につながりそうだと感じている。大人と関わった体験がないと、こどもが大人になったときに無関心になってしまうのでは、という思いもある。
【副議長】	目指す大人の姿、というのがあるとよいと話を聞いて感じた。ボランティアを経験してきた人が少ないと、自治会のなり手もいなくなる。こどもは、大人の姿を見て育っている。大人の姿を見せるためにも、保護者の力を引き出したい。
【委員】	消防団の方々は、仕事があるにもかかわらず、安全安心を守る活動をしてきている。自分の家庭だけではなく、地域を地域で守る、という意識を今一度もてるとよい。
【教育長】	不安を抱えている家庭も多い。家族がホッとしたり、助かったりする家庭支援、家族支援についても考えていく必要がある。
【委員】	つながりをつくるには、話す時間が必要。家庭、地域と学校をつなぐ役目を担う人材がいるとよい。
【事務局】	いただいたご意見をまとめ、次回の話し合いの際に協議題として提示させていただきます。
【議長】	委員の皆様、たくさんのご意見ありがとうございました。来年度形にしていきたいと思います。 それでは、来年度の神奈川大会について事務局からお願いします。
【事務局】	(第56回関東甲信越静社会教育研究大会神奈川大会分科会発表内容案について説明)
【議長】	事務局から発表の構成・内容について提案がありました。 地区研究会での発表を基本としていく案ですが、いかがでしょうか。
【委員一同】	承認

【事務局】	当日は、議長、副議長に発表をお願いしていますが、委員の皆様もご都合つきましたらぜひご参加ください。
【議長】	続いて「令和7年度社会教育関係団体への補助金について」です。
海老名市情報公開条例第7条第3号の規定により、非公開	
【議長】	続いて、「海老名市立図書館の運営について」です。最初に、中央図書館 有富副館長よりお願いします。
【指定管理者】	(中央図書館 説明)
【議長】	中央図書館の取組について、ご意見やご質問はありますか。
【副議長】	返却ボックスの利用はどのぐらいか。
【指定管理者】	海老名駅にある返却ボックスの利用が一番多い。毎日回収をしているが、午前中だけで170冊程度、午後も100冊ほど回収している。それ以外の設置場所は、毎日40~50冊程度。連休明けが多い。
【副議長】	返却日の何時までが期限なのか、有馬図書館の本も入れていいのか、などの声を聞くこともあるので、表示や周知を工夫できるとよい。
【指定管理者】	返却日に図書館に本が届いていなくても、いつ、どこの返却ボックスに入れたか伝えていただければ、新しい本を貸出できる。両館の本を入れて大丈夫であることは、伝えていきたい。
【委員】	イベントをたくさん開催しているため、もし人手が欲しかったら、ボランティアを募ってもよいのでは。ボランティアをしたら、優先予約など特典があると、たくさん集まりそう。アイデアとして。
【議長】	イベントを出張型で、学校などを場として開催は難しいか。
【指定管理者】	不可能、ということはない。学校との連携にもつながるので、相談していただいて、できる形を考えていきたい。スタッフの派遣という形であれば、費用もかからない。
【議長】	それでは次に、有馬図書館 大河原館長よりお願いします。
【指定管理者】	(有馬図書館 説明)
【議長】	有馬図書館の取組について、ご意見やご質問はありますか。
【議長】	それでは次に、「電子図書館に関するアンケート結果について」です。事務局から説明をお願いします。
【事務局】	(電子図書館アンケート結果の報告)
【議長】	電子図書館のアンケート結果について、ご意見やご質問はありますか。
【副議長】	電子図書館の児童と生徒の利用率はどうなっているか。
【事務局】	2024年7月の利用実績を調べたところ、利用者数1,285人中小生が1,208人、中学生が65人という結果であった。

【委員】	私も電子図書館をよく利用させていただいている。最初にダウンロードしておけば、好きな時に閲覧できるのでよい。文庫、小説も引き続き拡充していただきたい。
【議長】	それでは、全体を通して、委員の皆様から何かありますか。 ないようでしたら、議事を終了します。皆様進行にご協力ありがとうございました。進行を事務局にお返しします。
<b>4 その他</b>	
【事務局】	議長、議事の進行ありがとうございました。 それでは、閉会にあたり、金田副議長からご挨拶をいただきたいと思 います。よろしくをお願いします。
【副議長】	(副議長よりあいさつ)
<b>5 閉会</b>	
【事務局】	これをもちまして、令和6年度第6回海老名市社会教育委員会議 会閉会いたします。 今年度、社会教育委員としてご尽力いただきありがとうございました。 た。